

鯖江市付近に認められる低地震活動域周辺で発生する地震の特徴

Properties of earthquakes occurred around the seismicity gap in Sabae City

岡本拓夫・○平野憲雄・竹内文郎・西上欽也・和田博夫

Takuo OKAMOTO, ○Norio HIRANO, Fumiaki TAKEUCHI, Kin'ya NISHIGAMI, Hiroo WADA

In and around the Sabae City, we recognize the clear seismicity gap with about 10 km radius. No shallow micro-earthquake occurred at there. Characteristics of seismic activities around this area are the active region exists at east side (in the NKTZ) and north-east side is the after shock area of Fukui earthquake (1948, M7.1). Sabae fault, an active fault shown by trench research, exists middle part in clear gap region. It becomes clear that the hypo-depth of earthquake occurred at east side is very shallow. We introduce these phenomena in detail.

1. はじめに

地震予知研究センター北陸観測所は 1976 年よりテレメータ観測を開始し、北陸地方の地震活動の把握を行ってきた。観測所の存在する鯖江市付近に着目すると、半径約 10km の明瞭な地震活動の低い地域（空白域）が認識される。Fig.1 に嶺北の最近（01年 - 06年）の活動（ $M \leq 1$, $h \leq 30\text{km}$ ）を示す。嶺北地方では、 $M3$ クラスの活動が奥越付近に限られるようになり（岡本他）、福井地震の余震活動が低調な状態が続いている。このことは、空白域の明瞭な状態の継続と矛盾しない。本研究では、空白域の周辺での地震活動の特徴に言及する。

2. データ

解析は、上宝観測所、北陸観測所で記録されているデータを使用して行なった。震源リスト用に統合ファイルを作成し、再検測には Win system を使用した。再決定は MJHD (Hurukawa and Imoto) を用い、作図は HyperDPRI で行なった。発震機構は前田の方法で行なった。

3. 空白域の特徴

空白域は、福江市付近より越前市付近までかけて認められ、半径は 10km 程度になる。中心部には鯖江台地が存在し、鯖江断層の存在が確認された（岡本他、山本他）。Fig.2 に、付近の 76 年より 08 年までの震央（ $M \leq 1$ ）を示す。空白域の縁部のコントラストは明瞭で、その原因としての

物理の解明が至急の課題であると考えられる。

4. 周辺の地震活動の特徴

現在東部付近の地震活動が活発で（岡本他）、その地震群の発震機構が求められている。特に鯖江市東部では深さ分布の下限が最も浅く、そのテクトニクスの解明の必要性は高い。空白域は地震活動帯の中ではなく、幾つかの地震活動帯に囲まれて存在している様子が分かる。

Fig.1

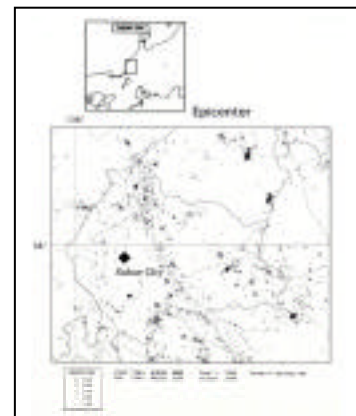


Fig.2

